

## Ⅱ 幼児教育

### 堺スタンダードカリキュラム



## 1 充実した幼児期のために

### (1) 接続期に大切にしたい5つの生活と遊びについて

幼児教育施設においては、環境を通して幼児の資質・能力を育むことが大切です。

5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現をいう。3歳児からの発達の特徴については、23ページの表を参照。）のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」です。この姿は、到達すべき目標ではありませんし、個別に取り出されて指導するものでもありません。また、個人差が大きいものでもあります。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として示された10項目のどの姿も等しく大切に育んでいきたいものですが、堺市のめざす子ども像と、堺市の子どもたちの現状を考え合わせ、特に5つを重点化して堺市として接続期に特に大切にしたい5つの生活と遊びを定めました。これは、入園から修了までを見通して各園の教育計画や教育・保育計画の中に盛り込み、園での生活全体を通して育むことができるよう、園としてのカリキュラム・マネジメントをしていく中で、特に意識して取り組んでいただきたいものです。どの幼児教育施設から就学した子どもも、この5つの生活と遊びの経験を等しく重ねていることにより、小学校生活のスタートがより円滑に、より充実したものになると考えています。

### ＜ 楽しく体を動かそう ＞

平成28年度の堺市立小学校における新体力テストを集計し、それをもとに堺市平均と全国平均とを比較し、過去5年間の推移について見たところ、ほとんどの項目において堺市の記録が全国平均を下回っていることがわかりました。一年生にも同じ傾向が見られます。

幼児期に様々な動きの経験を重ねることの大切さは、「幼児期運動指針」でも示されていますが、堺市においては特に意識をして取り組む必要があると言えます。日々の保育の様々な活動の中で、楽しみながらいろいろな動作を取り入れることができるように計画することが大切です。遊びを通して、多くの種類の運動を経験することが運動能力の向上につながります。

### ＜ ねばり強く取り組もう ＞

いろいろな遊びから自分がやりたいことを自分で選んで行動し、少し難しいと思うこともやってできた満足感を味わうなどの体験の積み重ねの中で、幼児は、自分の力でやってみようとして、考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げる体験を通して達成感を味わい、自信をもって行動するようになります。どのような活動内容を設定するのか、どのタイミングでどのように支援するのかを意識して保育に取り組むことが求められます。

### ＜ 豊かな言葉を身に付けよう ＞

今回の幼稚園教育要領等の改訂において、領域「言葉」では、「言葉に対する感覚を豊かにし」という文言がねらいに付け加えられ、「内容の取扱い」の項において「(4) 幼児が生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること」が新設されました。

幼児期に豊かな言葉に触れ、言葉による伝え合いを重ねることは、小学校の生活や学習において、友だちと互いの思いや考えを伝え、受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する姿や、自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする姿などにつながっていきます。

### ＜ 数に親しもう ＞

幼児期における数量に関する指導は、確実に数を数えられたり、正確に計算したりすることをめざすものではありません。幼児期に大切にしたいことは、遊びや生活の中で、必要感をもって、多い少ないを比べるために物を数えたり、長さや広さなどの量を比べたり、様々な形を組み合わせ遊んだりすることなどを通して、数量や図形への興味や関心を深め、感覚を豊かに磨いていくことです。このような感覚が、小学校における学習の生きた基盤となります。単に正確な知識を獲得することを目的とするのではなく、それぞれの場面で、活動の広がりや深まりに応じて数量に親しめるよう、工夫しながら環境を整えることが大切です。

### ＜ 決まりを守って生活しよう ＞

幼児は、友だちと様々な体験を重ねることを通して人間関係が深まる中で、決まりを守る必要性がわかり、友だちと一緒に心地よく生活したり、より遊びを楽しくしたりするために、自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いを付けながら、決まりをつくったり、守ったりするようにもなります。単に決まりを守らせることだけでなく、必要性を理解した上で、守ろうとする気持ちを持たせることが大切です。このような経験は、相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなどしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、生活上の決まりを理解し、守ろうとする力の基盤になっていきます。

#### 5 歳児の活動を見直す 3 つのポイント

- しっかりとめあてをもって取り組んでいるか。
- 友だちと協力して進めているか。
- 力をもて余したり、遊びが停滞したりしていないか。



# 堺市が接続期に大切にしたい5つの生活と遊びのイメージ

## めざす子ども像 ～それぞれの世界にはばたく“堺っ子”～

- 自分のよさを知り、人とつながり協働する
  - ・自分のよさを知り、豊かな心と人権感覚をもつとともに、人とつながり協働する
- 自らを律し、自ら学び続ける
  - ・自ら学び、考え、よりよく問題を解決し、自ら未来を創る
- ゆめの実現に向けて挑戦する
  - ・将来にゆめや希望をもち、その実現に向けてねばり強く努力する
- 堺を愛し、堺を誇りとする
  - ・堺の歴史・文化のよさを理解し、大切にするとともに、多様な文化を理解する

※「未来をつくる堺教育プラン」「めざす子ども像」(p17 参照)

接続期に大切にしたい5つの生活と遊び  
楽しく体を動かそう  
ねばり強く取り組もう  
豊かな言葉を身に付けよう  
数に親しもう  
決まりを守って生活しよう

### 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- (1) 健康な心と体 (2) 自立心 (3) 協同性 (4) 道徳性・規範意識の芽生え  
(5) 社会生活との関わり (6) 思考力の芽生え (7) 自然との関わり・生命尊重  
(8) 数量・図形、文字等への関心・感覚 (9) 言葉による伝え合い (10) 豊かな感性と表現

### 幼児教育において育みたい資質・能力

知識・技能の基礎

思考力・判断力・表現力等の基礎

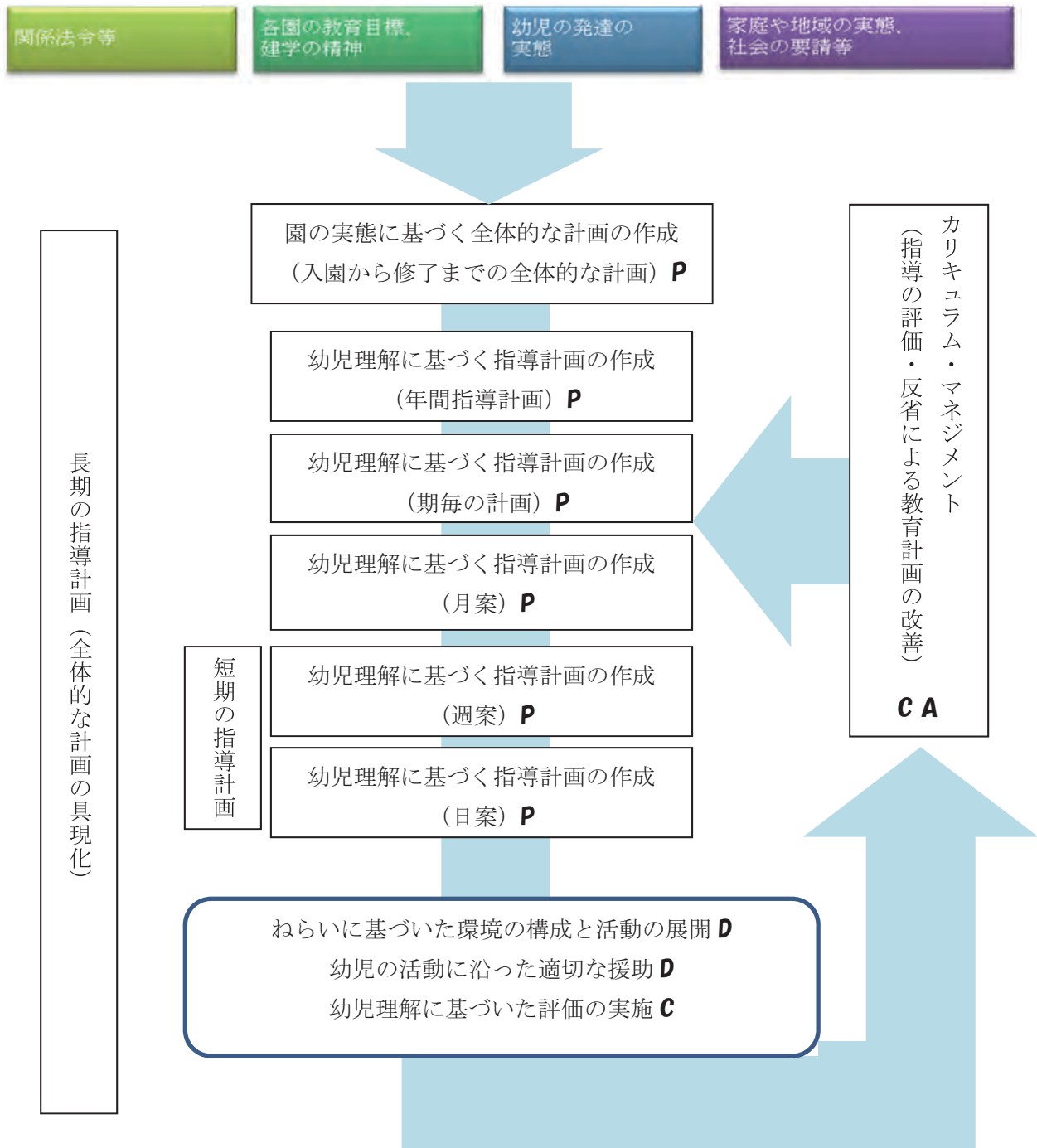
学びに向かう力・人間性等

3つの資質・能力と、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と、堺市が接続期に大切にしたい5つの生活と遊びは、それぞれが組み合わさって、堺市がめざす子ども像を育むことにつながっていくと考えています。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、どれも等しく育みたい姿です。各園においては、10の姿全てを念頭において全体的な計画の作成にあたってください。

## (2) 保育実践の流れについて




















ここからの折込み3ページにおいては、「発達の特徴と保育の連続性（2ページは0歳～2歳、23ページは3歳～5歳）」と「年間活動計画（例）」を示しています。

各園で見通しをもった全体的な計画を作成する際に、発達の特徴をいかした計画的な保育を組み立てるため、検討すべき視点を示した参考資料として活用してください。



**P: plan(計画) D: do(実行) C: check(評価) A: action(改善)**

発達の特徴と保育の連続性

0歳児					1歳児					2歳児						
	発達の特徴	ねらい	内容		発達の特徴	ねらい	内容		発達の特徴	ねらい	内容		発達の特徴	ねらい	内容	
健やかに伸び伸びと育つ	全身運動 手指の運動 生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> <li>首がすわり、手足の動きが活発になる</li> <li>寝返り、おすわり、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きをする</li> <li>手、指に触れたものを握る</li> <li>指先で物をつかむ、つまむ</li> <li>食事、睡眠、遊びの生活リズムができてくる</li> <li>ぐずる、泣く等で眠り、空腹、排泄など生理的欲求を伝える</li> </ul>	<p>伸び伸びと体を動かし這う、歩くなどの運動をしようとする</p> <p>食事、睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの発育に応じ体を動かして遊ぶ(坂道はいはい、トンネルくぐり、戸外散歩など)</li> <li>おもちゃを目で追ったり、口に入れたり、触ったり、握ったりして遊ぶ</li> <li>一人ひとりのリズムに応じて午睡をする</li> <li>一人ひとりに応じてミルクや離乳食を飲んだり食べたりする</li> </ul>	心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行し始める</li> <li>立つ、座るなど自由に体勢を変えられることができる</li> <li>指先が自由に動かせるようになり、つまむ、叩く、引っ張る、ちぎるなどする</li> <li>身の回りのことを自分でしたい気持ちが出てくる</li> </ul>	<p>明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸外で十分に遊ぶ</li> <li>ひっぱるおもちゃ、乗り物、玩具、プレイボード、積木などのおもちゃで遊ぶ</li> <li>スプーンを使って食べようとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行が安定し、しゃがむ、跳ぶ、走るなど基本的な運動動作を獲得する</li> <li>指先に力が入り、押さえる、引っ張る、ねじるなどする</li> <li>スプーンやフォークを使って食事を食べる</li> <li>大人に手助けされながら着脱、排泄を自分でしようとする</li> </ul>	<p>自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする</p> <p>健康、安全な生活に必要な習慣に気づき、自分でしてみようとする気持ちが育つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>走ったり、跳んだり体を使って遊ぶ</li> <li>一人でこぼさず食べるようになる</li> </ul>					
	自己の発見 対人関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>親しみをもっている人を目で追う</li> <li>あやすと笑い、語りかけに喃語やしくさで応答する</li> <li>特定の大人との愛着関係が育まれ、人見知りをする</li> </ul>	<p>安心できる環境で身近な人と親しみ、関わりを深め愛情や信頼感が芽生える</p>	<p>一人ひとりの生理的欲求を十分満たせる環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いないいないばあ遊びやくすぐり遊びを保育者にしてもらおう</li> <li>他児の様子をじっと見たり、動きを目で追ったりする</li> </ul>		人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己主張が始まる</li> <li>身近な人に関心をもちかかわろうとする</li> <li>自分の思いを指さし、身振りなどで伝えようとする</li> </ul>	<p>生活を楽しみ、身近な人とかわる心地よさを感じる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちや保育者のしていることをまねて遊ぶ</li> <li>保育者との関わりの中で自分の気持ちを安心して表す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己主張が強くなる</li> <li>「自分で」したいなど認めてほしいという気持ちが強くなる</li> <li>生活の簡単な見通しがもてる「～してから～する」</li> </ul>	<p>周りの子ども等への興味・関心が高まり、関わりをもとうとする</p> <p>生活の仕方に慣れ、決まりの大切さに気付く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「かして」など自分の思いを言葉にする</li> <li>友だちと同じ遊びを楽しむ</li> </ul>				
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>「うっくん、うっくん」等口を動かし声を出すことを楽しむ</li> <li>語りかけに喃語やしくさで応える</li> <li>「定位・要求」の指さしが見られる</li> <li>ジャーゴンが始まる</li> <li>「マンマ」「ワンワン」など、音と対象が結びつく</li> </ul>	<p>体の動きや表情、発声などにより身近な人と気持ちを通わせようとする</p>	<p>応答的な対応、共感してくれる大人との関係で安心と安全の感覚を得る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子守り歌やわらべ歌を聞いて体を動かしたりする</li> </ul>			言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞かれたものを指さす(可逆の指さし)</li> <li>単語や「わんわんきた」などの二語文を話し始める</li> <li>語彙が増えてくる</li> <li>「これなあに」など物の名前を聞くことが盛んになり動作や物と言葉を結びつけて理解できるようになる</li> </ul>	<p>言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本を読んでもらい、簡単な繰り返しを楽しむ</li> <li>片言で気持ちを表す</li> <li>言葉のやりとりを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いや」「もっと」「なんで？」など自分の気持ちを表現する</li> <li>大小、長短、多少などの比較判断がわかり始める</li> <li>性別の違いに興味を示し、相手の性別もわかり始める</li> <li>したいこと、してほしいことを身近な相手に簡単な言葉で伝える</li> </ul>	<p>人の言葉や話など聞き、自分でも思ったことを伝えようとする</p> <p>絵本等に親しむとともに、言葉のやり取りを通して身近な人と気持ちを通わせる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な歌やリズム遊びを楽しむ</li> <li>絵本や紙芝居を楽しむ</li> <li>生活の中で言葉のやりとりを楽しむ</li> </ul>			
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>泣いたり笑ったりする</li> <li>しくさや身振りで自分の気持ちを表現できるようになる</li> </ul>	<p>体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する</p>	<p>信頼できる大人に見守られながらその子なりの感性豊かな体験を十分保障する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手遊びやリズム遊びで体を動かして遊ぶ</li> </ul>	感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぐり描きをする</li> <li>歌や曲に合わせて、声を出したり体の動きで表現する</li> </ul>			<p>身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぐり描きを楽しむ(肩支点の往復運動からぐるぐる丸へ)</li> <li>生活や遊びの中で経験したことを再現して遊ぶ</li> <li>音楽に合わせて体を動かし自分なりの動きを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クレヨンなどでぐるぐる描きをしたり、同じ形のものを描いたりして、意味をつけ始める</li> <li>「～のつもり」と意図をもって動いたり、描いたものを「～みたい」と見立てたりする</li> </ul>	<p>感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする</p> <p>生活や遊びの様々な体験を通して、メッセージや感性が豊かになる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見立て、つもり遊びを保育者と一緒にする(動物まねっこ)</li> <li>生活や遊びの中で経験したことを再現して遊ぶ(ままごと、おうちごっこ、乗物ごっこ)</li> </ul>				
もの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>音のするものに興味を示す</li> <li>近づく物や動く物を目で追う</li> <li>歌や音に反応し喜ぶ</li> <li>身の回りのものに手を伸ばす</li> </ul>	<p>身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ</p> <p>見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分からかわろうとする</p>	<p>身近にいる人やそばにあるものを通してできることを増やしていく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感触遊びをする(水、お湯、砂、小麦粉)</li> <li>おもちゃを叩く、振る、落とす、などして遊ぶ</li> </ul>		身近な環境との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な人と一緒に水、砂、紙など身近な素材に触れる</li> <li>おもちゃを出して遊んだり、一緒に片付けようとしていたりする</li> </ul>		<p>身近な環境に親しみ、触れ合う中で様々なものに興味や関心をもつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭や戸外で砂や泥んこに触れて遊ぶ</li> <li>生活や遊びの中で色や形に興味をもつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積み木を動かして「パス」と言うなどイメージが膨らみ、見立て、つもり遊びが豊かになる</li> <li>生活や遊びの中で色や形に興味をもつ</li> <li>身近な小動物や自然物に興味をもつ</li> </ul>	<p>様々なものにかかわる中で、発見を楽しんだり考えたりしようとする</p> <p>見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指先を使って遊ぶ</li> <li>自然や季節に関心を持ち繰り返して遊ぶ</li> <li>身近な動物に興味、関心をもつ</li> <li>形、大小、色などに関心をもつ</li> </ul>				

※乳児の遊びは、成長発達の姿であり自立のための準備ともいえます。乳児が感じること、違いがわかることは考えることに繋がっていきます。つまり、考える、学ぶ、わかるということは感じることを始まりとして身に付いていき、それがやがて知性や、自分をコントロールしたり相手の立場に立つことができる力(理性)の基礎になっていきます。保育者は乳児が自分の手足や五感を通してわかっていくことに見通しをもち養護と教育の一体となった関わりを大切にしていきたいと思います。

	3歳児		4歳児		5歳児		
	発達の特徴		発達の特徴		(前半)	(後半)	
健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な運動機能が伸びる</li> <li>全身のバランスが取れてくる</li> <li>ケンケン、三輪車をこぐなど「～しながら～する活動」がでし始める</li> <li>食事、排泄、衣服の着脱などほぼ自立できるようになる</li> </ul> 	<p>2歳～3歳時期</p> <p>行きつ戻りつ揺れ動きながら成長</p> <p>自我の拡大と自立が芽生える (2歳半～3歳)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>全身のバランスをとる能力が発達し、体の動きが巧みになる</li> <li>様々な運動、遊びに自分から取り組む(片足ケンケン、スキップ、目標に向かってボールを投げるなど)</li> <li>遊具や用具の使い方に慣れる</li> <li>簡単なルールのある遊びを楽しむ</li> <li>生活に必要な習慣が身に付き、自分でできることは自分で行う</li> </ul>	<p>発達の節目(4歳半ばころ)</p> <p>自分の欲求と周囲の状況の間で折り合いをつける</p> <p>言葉で行動を調整し、友だちの中で自制心が育つ (4歳～5歳半)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動機能がますます伸び、喜んで運動遊びをする</li> <li>友だちとともに活発に遊ぶ</li> <li>危険な物や場所を知り、安全に気をつけて、遊具や用具を正しく使う</li> <li>見通しをもった生活ができるようになる(園生活の決まり、当番活動、遊びの準備、片付けなど)</li> <li>ルールのある遊びに参加する</li> </ul>	<p>幼児期の総仕上げ</p> <p>「学力の土台」を築く</p> <p><b>*中間の世界をつくる</b></p> <p>二つの世界を対比するだけでなく、違いの中に共通点を見出す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大中小など3次元の表現</li> <li>系列化</li> <li>「だんだん～する」力とともに自分の行動をだんだん調節する</li> <li>過去、現在、未来という大まかな時間関係を把握し、過去、未来を現在に照らして吟味しようとする</li> <li>すじみち</li> <li>心の中で筋道立てて考え、表現する力</li> </ul> <p><b>書き言葉の獲得の土台</b></p> <p>↓</p> <p>8、9歳につながる力 自分の経験や感情を人に説明して伝わる(文脈形成力)</p> <p>教える力・導く力 考える力や自己を調整する力、相手にわかるように伝える力、年下の子どもや相手を思う力を発揮する</p> <p><b>みんなの中の自分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちとの世界をつくる</li> <li>友だちと大きな目標を共有して、自分の役割を考えるようになる</li> <li>力を合わせてやり遂げる</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の力を出し、競い合ったり応援し合ったりして、全身を動かして遊ぶ</li> <li>様々な運動、遊びを通して、進んで物事に取り組む</li> <li>生活や活動の見通しがつくようになり自主的に生活を進めようとする</li> <li>清潔を心掛けたり、マナーを守って食事をしたりして心地よく過ごせるようになる</li> <li>自分の成長を感じ、就学への喜びや期待を膨らませる</li> </ul>
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>自我がよりはっきりしてくる</li> <li>友だちとの関わりが多くなる</li> <li>自分を「ぼく」「わたし」と認識し表現したり、フルネームを意識し始める</li> <li>簡単なルールのある遊びを身近な大人と楽しむ</li> </ul> 	<p><b>*自我の充実</b></p> <p>他人をくぐって自分がわかる(自分のつもりだけでなく、相手のつもりがわかる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二分的評価(良い-悪い、できる-できない、得意-苦手)</li> </ul> <p>基本的生活習慣の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと一緒に遊ぶ</li> <li>少しずつ自分の気持ちをコントロールできるようになる「～だけれども」</li> <li>身近な人の気持ちがわかり、自分の気持ちに折り合いをつける「～だけれども・・・する」</li> <li>規範意識が芽生える</li> </ul>	<p><b>*内面の育ち</b></p> <p>調整する力 「～しながら～する」</p> <p>自制心の形成へ 「～だけれども～する」</p> <p>決まりやルールを守る力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いやりの心が育ち、お互いを認める</li> <li>自己主張のぶつかり合いの中から自分たちで解決しようとする</li> <li>仲間の一人として自覚や自信がもてるようになる</li> <li>自立心が育ち、達成感や自己有能感をもてるようになる</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども同士で意見を調整し、折り合いをつけて解決しようとする</li> <li>友だちと役割を分担し、互いに考えを出し合い、協力して遊びや生活を進める</li> <li>社会の規範意識が身に付き行動する(公共のマナー、交通ルール)</li> </ul>	
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な素材を使って、自由に描いたりつくったりすることを楽しむ</li> <li>生活の中で、色、形、数、大小、多い少ないなど違いに気付く</li> <li>数の選択(たくさんの中から3個選ぶ)や数の復唱では3まで可能になり、4に挑戦し始める</li> <li>簡単な折り紙を折る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージを膨らませてごっこ遊びをするようになる</li> </ul> <p>語彙の増大 話し言葉の基礎ができる 「なぜ」「どうして」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な素材を使って、遊びに必要なものをつくる</li> <li>生活の中で必要に応じて数を数えたり、量の大小を比べたりする</li> <li>自然など身近な環境に積極的にかかわる</li> <li>様々なものの特性を知りそれらとの関わり方や遊び方を知っていく</li> </ul>	<p>話し言葉の形成(一心の完成期) 経験したことを言葉にできる</p> <p>思考の発達(経験をもとに言葉を使って考えるようになる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>想像力が豊かになり、虚構の世界で遊びこめる</li> <li>体験から抽象的な思考へ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな素材を使って、自分なりに工夫して表現する</li> <li>身近な自然に触れ、美しさや季節の変化に興味をもつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のイメージしたことを、様々な素材や用具を選んで描いたりつくったりする</li> <li>文字や数を使った遊びを繰り返し楽しみ、自分たちの遊びや生活に取り入れていく</li> <li>身近な動植物の世話をする中で、その成長や生態に興味や関心をもつ</li> <li>周囲の環境に興味や関心を持ち、触れる、観る、試すなど試行錯誤する</li> </ul>	
言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙が増え、思いのままに感じたことを言う</li> <li>盛んに「なぜ」「どうして」と質問するようになる</li> <li>自分の経験を言葉で伝えることができるようになる</li> <li>絵本やお話など見たり聞いたりして内容やおもしろさがわかる</li> </ul>	<p>語彙の増大 話し言葉の基礎ができる 「なぜ」「どうして」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ぼく」「わたし」を代名詞として使える</li> <li>友だちとのつながりを感じながら会話を楽しむ</li> <li>経験したことや、思ったこと、感じたことを言葉で伝える楽しさがわかる</li> </ul>	<p>話し言葉の形成(一心の完成期) 経験したことを言葉にできる</p> <p>思考の発達(経験をもとに言葉を使って考えるようになる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>想像力が豊かになり、虚構の世界で遊びこめる</li> <li>体験から抽象的な思考へ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字を読んだり書いたり、数を数えたりすることに興味をもつ</li> <li>体験したり感じたりしたことを言葉で表現することを楽しむ</li> <li>相手にわかるように話す</li> <li>因果関係や時間軸に沿った解釈ができるようになるためストーリー性のあるお話を好むようになる</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことや感じたことを相手にわかるように話す</li> <li>その場にふさわしい言動がとれる</li> <li>話をしている相手の思いを受け止めながら聞く</li> </ul> 	
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>描画では閉じた丸が描けるようになる</li> <li>顔の表現が豊かになり、「頭足人」を描くようになる</li> <li>日常生活で経験したことをごっこ遊びに取り入れる</li> </ul> 	<p>語彙の増大 話し言葉の基礎ができる 「なぜ」「どうして」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>描画では天地のある(太陽や地面)絵を描くようになる</li> <li>想像力が豊かになり、目的をもって行動し、つくったり描いたり、試したりする</li> </ul>	<p>思考の発達(経験をもとに言葉を使って考えるようになる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>想像力が豊かになり、虚構の世界で遊びこめる</li> <li>体験から抽象的な思考へ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージをもって描いたりつくったりするようになる</li> <li>感じたことを描いたり、つくったり、言葉にしたりして表現する</li> <li>曲の雰囲気を感じながら歌ったり、友だちと気持ちを合わせて歌ったりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のイメージしたように描いたり、細かな制作をしたりする</li> <li>完成をイメージしながらつくり上げる</li> <li>歌詞の意味を理解しながら、声をそろえて歌う</li> <li>感じたことや考えたことを様々な表現方法で工夫して表す</li> </ul>	



年間活動計画（例）

めざす子ども像

- 自分のよさを知り、人とつながり協働する
- 自らを律し、自ら学び続ける
- ゆめの実現に向けて挑戦する
- 堺を愛し、堺を誇りとする

教育目標

各園の子ども像に合わせながら教育目標を作成する

年間活動計画

幼児理解に基づく指導計画の作成を園で行う

期	I 期（4・5月）	II 期（6・7・8月）	III 期（9・10月）	IV 期（11・12月）	V 期（1・2・3月）	
3歳児	ねい い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友だちに親しみをもち安心して過ごす</li> <li>・園の生活に少しずつ慣れる</li> <li>・園に慣れ、安心して過ごす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の楽しさを感じ、安心して過ごす</li> <li>・園の生活の仕方に慣れる</li> <li>・教師や友だちと触れあって遊ぶことを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でできることは自分でしようとする</li> <li>・自分からしたい遊びを見つけて遊ぶ</li> <li>・友だちや教師と一緒に簡単な集団遊びを楽しむ</li> <li>・秋の自然に気付き、かかわって遊ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりにいろいろな遊びを楽しむ</li> <li>・友だちと一緒に遊ぶことの楽しさを知る</li> <li>・いろいろな素材の感触を味わいながら制作などの遊びを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちとかかわることを喜び、言葉を交わしながら遊ぶことを楽しむ</li> <li>・自分の思ったことや考えたことを遊びに取り入れようとする</li> </ul>
	活動例	○草つき 花びらと遊ぶ（集める・眺める） ○水遊び シャボン玉（泡遊び） 通年 飼育している生き物のえさやり 通年 ままごと ご馳走つくり 人形などを抱っこする 砂遊び 通年 固定遊具・滑り台 スケートー 三輪車 など 通年 準備やあと片づけ（身支度・遊び道具など）事-7 通年 手遊び・うた・折り紙・お絵かき 絵の具 言葉のまねっこ遊び 通年 のり・はさみ・セロハンテープを使って遊ぶ 通年 安全な遊び方や約束を守って遊ぶ事-3	○秋の自然と遊ぶ 虫取り 木の実・落ち葉・ドングリ事-6 ○どろんこ遊び ○なりきり遊び 見立て遊び事-5 ○体を動かして遊ぶ事-1 かけっこ コロコロドッチボール ○踊りや体操を楽しむ 音遊び（打楽器） ○いろいろな材料や用具を使って遊ぶ事-5 ○栽培活動を知る事-8	○冬の自然と遊ぶ（氷・雪に触れる） ○お正月遊び ○生活発表会（ごっこ遊び） ○簡単なルールのある遊び 4・5歳児の姿を見る機会を増やし、憧れてやってみたいという意欲を膨らませていく		
4歳児	ねい い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4歳児クラス的环境に慣れ、友だちや教師と遊びを楽しむ</li> <li>・自分の好きな遊びを楽しむ</li> <li>・園の生活の仕方がわかり、できることは自分でしようとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の生活の流れがわかり、集団生活の約束やルールがわかるようになる</li> <li>・気の合う友だちと一緒に遊びを楽しむ</li> <li>・身近な自然に触れて、見たり遊んだりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から進んで遊びを見つけ、友だちと一緒に遊ぶ</li> <li>・秋の自然に触れ、興味をもって遊ぶ</li> <li>・思いきり体を動かしたり表現したりすることを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと考えを出し合いながらいろいろな遊びを楽しむ</li> <li>・季節の移り変わりを感じ取り身近な自然物に存分にかかわり遊びに取り入れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児になることを楽しみにし、意欲をもって取り組む</li> <li>・友だちとの関わりを深めながら遊ぶ</li> </ul>
	活動例	○身近な自然に触れて、友だちと一緒に遊ぶ（水・土・砂・草花など） 通年 動植物や自然に触れて遊ぶ（チョウ・ザリガニ・ダンゴムシ・など） 通年 色水遊び 草花を大切に使うことがわかる 草花や用具の片づけ方を知る 通年 固定遊具（雲梯・のぼり棒・滑り台・鉄棒） 通年 安全な遊び方や約束を守って遊ぶ事-9・3 ○水遊び（シャボン玉・どろんこ・シャワーなど） 通年 手遊び・うた・折り紙・お絵かき・ごっこ遊び ○曲に合わせて踊ったり歌ったりする ○栽培活動（夏野菜・サツマイモ苗植え ジャガイモ・玉ねぎ・夏野菜など収穫する）事-8	○イメージある砂・土遊び（友だちと場を構成して遊ぶ） ○秋の自然物を使った遊び 集める・並べる・構成して遊ぶ ○体を動かして遊ぶ かけっこ（全力で走る） スケートー 玉入れ など 5歳児が運動している様子を見たり応援したりする 事-10 ○栽培活動（大根種まき サツマイモ・ブロッコリーなど収穫する）事-8	○冬の自然と遊ぶ（息の白さ・雪で遊ぶ） ○お正月遊び こま回し・たこ揚げ ○生活発表会 5歳児の劇を見る 異年齢の交流を通して5歳児への憧れや親しみもてるような機会をつくる		
5歳児	ねい い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児になった喜びや自覚をもち、園生活を楽しむ</li> <li>・自分のやりたい遊びや、友だちとのかわりを楽しんで遊ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと考えを出し合ったり、受け入れ合ったりしながら遊びを楽しむ</li> <li>・身近な環境や自然に触れ、見たり試したりしながら遊ぶ</li> <li>・思ったこと、感じたことを伝え合う楽しさを味わう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと遊ぶ中でルールを守って遊ぶことの楽しさに気付く</li> <li>・共通の目的をもち、遊びを進める楽しさを味わう</li> <li>・いろいろな運動遊びに取り組み、力を出したり競ったりする楽しさを味わい、励まし合うことで集団を意識する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通の目的に向かって友だちと一緒に協力したり工夫したりして遊びを楽しむ</li> <li>・自分の得意なことをいかしながら友だちと目的意識をもって遊びを進める</li> <li>・季節の移り変わりに興味や関心をもち、自分からかかわって遊ぶことを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと共通の目的に向かって遊びをつくり、自信をもってやりとげる</li> <li>・就学への喜びや期待感をもつ</li> <li>・生活への見通しをもたせ、協同的な遊びや学びにつながる遊びを大切にする</li> </ul>
	活動例	通年 安全な遊び方や約束を守って遊ぶ 事-3 通年 動植物や自然に触れて遊ぶ 世話をする 図鑑を見る（チョウ・ザリガニ・ダンゴムシなど）事-3・4・6 通年 固定遊具 いろいろな遊具に挑戦する（一輪車・竹馬・縄跳び・リング・跳び箱・登り棒など）事-1 通年 砂場遊び ままごと ごっこ遊び ○色水遊び（色の出し方を自分なりに見つける・色の濃淡を味わう） 通年 体を動かして遊ぶ かけっこ（直線・カーブ・リレー）事-1・2・10 竹馬・一輪車・ドッチボール・サッカー 通年 手遊び・うた・折り紙 ○様々な道具や素材を使って遊ぶ（絵の具・コンテ・はさみ・テープ類） 通年 当番活動 事-7 ○栽培活動 世話をする（夏野菜・サツマイモ苗植え・ジャガイモ・玉ねぎ・夏野菜など収穫する）（大根種まき・サツマイモ・ブロッコリーなど収穫する）事-8	○秋を探そう 木の実事-5 虫取り 木の葉ひろい事-6	○冬の自然と遊ぶ（氷さがし・氷つくり・雪） ○お正月遊び カルタ・トランプ・こま回し・けん玉 すごろくなど ○縄跳び（大縄など）鬼ごっこ事-1・2 ○生活発表会 小学校見学・授業体験 小学校への円滑な接続		

保幼小連携による教育内容の実践 年間連携計画例参照

(3) 実践事例について

次ページからは、堺市が大切にしたい5つの生活と遊びに視点を置いて、10の遊び(実践事例)を示します。年間活動計画(例)と事例の項目の見方は以下のとおりです。

学年	I 期(4-5月)	II 期(6-7-8月)	III 期(9-10月)	IV 期(11-12月)	V 期(1-2-3月)
幼稚園	・新年度の環境づくりに取り組む ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める	・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める	・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める	・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める	・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める
小学校	・新年度の環境づくりに取り組む ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める	・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める	・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める	・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める	・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める
中学校	・新年度の環境づくりに取り組む ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める	・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める	・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める	・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める	・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める ・園舎の整備を進める

年間活動計画(例)の中に、該当する事例番号を提示  
**事-2**  
 の場合、「事例の2」を示す

- 大切にしたい5つの生活と遊び
- ・楽しく体を動かそう
  - ・ねばり強く取り組もう
  - ・豊かな言葉を身に付けよう
  - ・数に親しもう
  - ・決まりを守って生活しよう

**赤字** 接続を考えた活動

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

**事-2**と表示

- 《各記号・マークの示す内容》
- ★環境の構成
  - 幼児の姿
  - △教師の援助
  - ▲教師の読み取り
  - 幼児の言葉
  - 幼児の活動

- 資質・能力3つの柱
- 知識及び技能の基礎
  - 思考力・判断力・表現力等の基礎
  - 学びに向かう力・人間性等

**2 楽しく体を動かそう** 健康な心と体

くしっぽとりで遊ぼう **5歳 II期**

ねらい ◎「くしっぽを取る」ために思いっきり走り、取れた喜びを味わう

○みんなで楽しめるルールを相談して遊ぶ

手の動きをしっかりと見て動く

★十分な数のくしっぽを幼児達の手が届く所に置き、いつでも遊びが始めるようにする。

○友だちと教人で誘い合って遊び始める。

①すぐに終わってしまう。「つまらない」「誰か一緒にしよう」

②くしっぽとりを楽しんでいる様子を見て、友だちが集まってくる。

▲①少人数なので思い切れる相手が見つかりやすい。

▲②人数が増えることで、遊びの時間が長く持続するおもしろさが増える。

△① 幼児の気持ちを読み取り声をかけ、思いを聞き出す。

遊びの中でルールを話し合う

資質能力

チームつくり

資質能力

○遊びの空間を設定する中で、ルールを決めてチームで遊ぶ

▲話し合いの中でリードを取る幼児・友だちの意見を聞こうとする幼児・思いを出げない幼児がいる。

ねらい  
 ◎タイトルに視点を置いた場合  
 ○活動に視点到視点を置いた場合



# 1 楽しく体を動かそう

\*健康な心と体  
\*言葉による伝え合い  
\*数量・図形、文字等への  
関心・感覚


<跳んでみたくなる環境> 5歳児 I期 ・ II期

ねらい ◎全身を使って遊びこむ中で、跳ぶ楽しさを味わう

○いろいろな遊びの中で十分に体を動かし、充実感を感じ、体を動かす遊びを楽しむ


**自由な遊び**

カエルの住む池やハスの葉に見立てた環境



びよびよん!  
カエルだよ

**平面 ゴム跳び**




忍者のつもりでジャンプ!

ドキドキするけど  
いってみよう

★ひっかけても痛くないゴム

試す・工夫する

**段差・小川での石跳び**



気付く・できるようになる

★思わず遊びだしたくなる環境を整える。または幼児と遊びの場を考えてつくる。(例：忍者修業の場) など。

○「やってみよう」という気持ちで遊びを始める、繰り返し遊びを楽しむ、遊びながら自然と友だちや教師との関わりが広がっていく。

△幼児の興味関心を察知し、その時期の姿に合った遊びを考える。また挑戦してみようと思える遊びも工夫する。

○いろいろな遊びを経験する。

**一人跳び**



粘り強く取り組む・挑戦する

**リングを使って跳ぶ**



**大縄跳び**



それ! 今だ!

○縄の動きを観察してタイミングを合わせて跳ぶ、友だちや異年齢の子と手をつないで互いに声をかけて縄を潜り抜ける、フープ縄跳びをする、一人で跳ぶ縄跳びに挑戦する。

△存分に遊べる時間や場所を確保する。大縄遊びでは教師が回し手となりタイミングを合わせる。「跳ぶ」技術に固執しすぎないように留意する。

▲「できた」という経験が特に5歳児は自信や意欲につながり、体を動かして遊ぶことに積極的な様子が増える。年少児はその姿を見て憧れ、「やってみよう」という気持ちをもつきっかけとなっている。

## 遊びの中の豊かな学び

- ・楽しみながら繰り返して遊ぶ中で、いろいろな体の動かし方やリズムカルに跳ぶ楽しみ、あきらめずにやり遂げたことで、満足感や達成感を味わう
- ・距離感・高さ・方向などの体の感覚をつかんだり、スリルを味わいながら跳ぶ
- ・友だちと気持ちを合わせたり声をかけ合ったりする中で培う協同性、言葉による伝え合い
- ・どうすればできるようになるか、試行錯誤する中でより楽しめる方法を見つけしていく
- ・跳べた回数を数える。数量への関心をもつ

## 評価の観点

- ・ワクワク・ドキドキ夢中になって遊べる環境教材であるか
- ・幼児はもっとやってみようと思いが高まっているか

## 2 楽しく体を動かそう

\*健康な心と体 \*道徳性・規範意識の芽生え  
\*言葉による伝え合い \*協同性

### <しっぽとりで遊ぼう> 5歳 Ⅱ期

ねらい ◎「しっぽを取る」ために思いっきり走り、取れた喜びを味わう

○みんなで楽しめるルールを相談して遊ぶ

○1 対1相手の動きをしっかりと見て動く



★十分な数のしっぽを幼児たちの手が届く所に置き、いつでも遊びが始められるようにする。

○友だちと数人で誘い合って遊びを始める。

①すぐに終わってしまう。「つまらない」「誰か一緒にしよう」

②しっぽとりを楽しんでいる様子を見て、友だちが集まってくる。

▲①少人数なので追いかける相手がわかりやすい。

▲②人数が増えることで、遊びの時間が長く持続するおもしろさが増える。

△①幼児の気持ちを読み取り声をかけ、思いを聞き出す。

○友だちのいろいろな動きを意識しながら動く



気付く・できるようになる

○遊びの中でルールを話し合う。

試す・工夫する

チームをつくろう

ずっと走っているのはしんどいね  
ここから先にはいかないとか、逃げる  
ところは、線の中にしてよう

○遊びの空間を設定する中で、ルールを決めてチームで遊ぶ



粘り強く取り組む・挑戦する

▲話し合いの中でリードを取る幼児・友だちの意見を聞こうとする幼児・思いを出せない幼児がいる。

△様子を見守りながら意見を出せない幼児がいれば思いをひきだせるようにかかわる。

▲チームがわかりやすいように帽子の色を変えている。

▲競争心が芽生え、チームで協力して遊び方を工夫している。

#### 遊びの中の豊かな学び

- 友だちを助けたり守ってあげたりしたことなど、頼られる経験で自尊感情が高まっていく
- 遊びのルールを話し合う中で、友だちの様々な考えを聞き、どの意見を取り入れるか考えたり、新たな意見を考えたりする
- チームの人数を数えたり、遊ぶ範囲（空間）を決めたりすることで数や空間への関心が高まる
- 話し合いを通して友だちと心を通わせ、言葉やいろいろな手法で思いを伝え合う
- しっぽ取りを通して、友だちの思いや考えを知り、工夫したり協力したりして遊ぶ充実感を味わう

#### 評価の観点

- 幼児はしっぽを取ったり取られたりする中で走る楽しさを味わうことができているか
- 楽しさを味わったり探求したりする十分な時間や場所を確保できているか
- 幼児の気付き・発見が広がるような話し合いができているか
- ルールをつくって遊んだことで楽しさが増しているか

\*自然との関わり・生命尊重  
\*自立心  
\*言葉による伝え合い

### 3 ねばり強く取り組もう

#### <虫と遊ぼう> 5歳児 1期

ねらい ◎身近な生き物に触れ、その特徴に興味をもちかかわることを楽しむ

○生き物の生態の特徴や変化する姿をとらえ、好奇心や探究心をもってかかわろうとする

「それ取って、ここに入れて！」

○大きいクラスの幼児たちに憧れ、自分もほしい、やってみたいという気持ちをもつ。  
△つかみたいけれど、つかめない気持ちを受け止め、つかむことができるよう支援していく。

つかむことができる

「つかめた！私もできた」

○ダンゴムシをつぶさないように、指先の力を調節してつかまえられるようになる。  
▲手指の力の入れ方を調節するという難しさがおもしろさにつながり、「もっとやりたい」と遊びが継続している。

つぶさずつかもうと工夫する

「僕もやってみよう！」

○つかもうとチャレンジしている幼児や、つかめるようになった幼児を見て驚いたり、憧れる幼児がいる。  
★カブトムシと関わることでできる場をつくり、扱いやすい木の枝など置いておく。  
▲つかめなかったカブトムシをつかめたことが、自信となった。

ひっかかれずつかもうと工夫する

「こんなことができるかな？」

○カブトムシを歩かせたり、ぶら下がらせたりしている。  
★図鑑を用意し、生態の特徴をつかんだり、知ることで愛着を深めたりできるようにする。  
▲飛んで逃げたり、引っかかれたりするたびに、関わりを試しながら、カブトムシの習性を知り、付き合い方を探っている。

セミもつかまえられるよ

発展



生態に気付く



新たに捕まえることに挑戦する

#### 遊びの中の豊かな学び

- 虫の習性や生態などに興味をもち、集めたり飼育したりしてかかわり、大切にしようとする姿が見られる
- 調べたり、伝え合ったり、身近な人から話を聞いたりすることを通して、自分では気付かなかったことを知り楽しんでいる
- 虫をつかみたいと挑戦し、繰り返し楽しみながら遊びを広げている

#### 評価の観点

- 主体的に虫にかかわろうとしているか
- 生き物の不思議や命があることへの気づきが生まれ自然への愛情や大切にしようという気持ちにつながっているか
- 友だちや教師、身近な人との関わりを通して遊びを膨らませているか

2歳児  
ダンゴムシをつかまえよう



大好きな大人とともに自分の心動くものを見つけ、存分に楽しむことで次への意欲を膨らませている。

「うわ！動いてる」

○ダンゴムシに興味をもち動きや変化をとらえて友だちと見せ合ったり、教師に伝えたりする。  
▲かかわることで変化するおもしろさや不思議さが更に興味を掻き立てている。

「こんなところにも、いたよ」

○ダンゴムシ集めにいろいろなところを探す友だちの姿から、興味をもつ幼児が増える  
▲教師もいろいろな場所(石の下・枯葉の下等)と一緒に見つけて楽しむ。  
★絵本や図鑑など用意して一緒に見る。

もっとやりたいと挑戦する

5歳児  
カブトムシと遊ぼう



虫との遊び方を工夫する

「私のカブトムシ！」

○たくさん生まれた幼虫を家に連れて帰りたいたい、ケースに入れもち帰り、大切に育てる。  
▲保護者にも飼育に協力してもらったことで、保護者や友だちと共感する場面が増え、幼児のカブトムシへの愛着も深まった。

「戦いだ！」

○虫好きの幼児たちが集まって、カブトムシを戦わせるなどの遊びが始まる。  
▲限られた数のカブトムシを友だちと一緒にいかに遊ぶか、工夫し繰り返し楽しんでいる



○虫をつかむことができた自信や興味の広がりから、セミ取りにも挑戦する。木に止まるセミを根気強く探し、網でセミ取りにチャレンジしている。

## 4 ねばり強く取り組もう

<化石をほろうよ >5歳児 I期

\*自然との関わり・生命尊重 \*協同性  
\*自立心 \*思考力の芽生え

ねらい

◎友だちと一緒に戸外で好きな遊びを見つけ遊びこむ

○砂の感触や不思議さに興味をもち変化を楽しんだり、感じたりする

○園庭で砂が固まっている所を発見し、掘り起こしながらイメージが「化石」につながっていった。

「化石発見!!」

○かたまりを「化石」に見立てて遊ぶ。  
○スコップを使って大きなかたまりを掘る。  
△教師も一緒に遊び幼児たちのイメージをつなげていく。

変化に気付く

「壊れそうだよ」  
「そっとな」

○化石が壊れないようにスコップで掘る  
△濡れた感触、乾いた感触、砂と土の違いなど経験できる遊びを用意する。

▲ゆっくり掘ること、力の加減で壊れてしまうことなど経験する。



試す・工夫する

挑戦する

「こっちを使うといっぱい掘れるよ」

○どこが壊れそうか、壊れかけているところはどこか友だち同士で教え合う。

▲幼児たちが協力しながら、もっと大きな化石を見つけようと意欲をもって遊び、楽しさを共有している。

★どろんこ、砂遊びなどたっぷり遊べるコーナーをつくる。

★大きさや形の違いに気付き比べられるよう置いておける場所をつくる。

### 遊びの中の豊かな学び

- ・砂の変化や不思議さを化石に見立て共通のイメージをもって遊びを楽しむ
- ・力の入れ加減など言葉で伝えたり、教え合ったりする
- ・砂を掘り起こすために考え、道具を工夫し、力を合わせて遊びを進めるおもしろさに気付いている

### 評価の観点

- ・友だちの発見を共有し、共通のイメージをもって楽しめているか
- ・道具の工夫や指先の巧緻性を発揮して目標を友だちと共有できているか
- ・幼児の発見や喜びに共感し、共に楽しめているか

## 5 豊かな言葉を身に付けよう

\*豊かな感性と表現 \*社会生活との関わり  
\*言葉による伝え合い \*道徳性・規範意識の芽生え

### <かき氷屋さん> 3歳児(Ⅱ期)

ねらい ◎身近な生活の中で体験したことをまねて楽しむ

○友だちと共通のイメージをもち、簡単なやりとりをしながらごっこ遊びを楽しむ

★地域とのつながりをいかし、幼児たちが実際に体験できるようにする。

△祭りに興味をもち、様々な環境に気付けるよう声をかける。

○散歩に出掛け、地域の祭りの様子に興味をもつ。



気付く



おまつり行ったよ

太鼓たたいた



かき氷食べた

おいそう  
でしょ

○かき氷をつくることを楽しむ。

▲教師や友だちに食べてほしいと思う。

△イメージを共有できるように皆で話をする機会をもつ。

△幼児の言葉を他の幼児にわかるように整理して伝える。

表現する

▲素材に触れることでよりイメージを膨らませる。

▲自分が体験したことを、ごっこ遊びの中で表現しようとしている。

△イメージが膨らむように絵本や写真などを見ながら話をする。



甘いよ

いらっしゃいませ

100円です

冷たいね



ちょっとお待ち  
ください

いくらですか

いちご味ください

▲お店屋さんのやりとりの言葉を知る。

▲友だちとの対話が楽しいと思いはじめている。

▲繰り返し遊ぶことを楽しんでいる。

意欲

★幼児たちの体験したことから、ごっこ遊びが展開できるように素材(綿やチェーンリングなど)やエプロンなどを用意する。

#### 遊びの中の豊かな学び

- ・体験したことを自分たちの生活に取り入れ遊びの場をつくりあげる
- ・友だちと共通のイメージをもち、言葉でのやりとりをしながら遊びを進める
- ・役割を分担しながら遊びを進める
- ・遊びに必要な物や材料を見つけようとする

#### 評価の観点

- ・幼児は体験したことを表現できているか
- ・祭りのイメージを幼児は十分に楽しむことができているか
- ・友だちや教師と言葉のやりとりを楽しんでいるか

## 6 豊かな言葉を身に付けよう

< 秋みつけをしよう >5歳 Ⅲ期

\*健康な心と体 \*言葉による伝え合い  
\*自然との関わり・生命尊重  
\*思考力の芽生え \*豊かな感性と表現

ねらい ◎身の回りの環境の変化や事象に興味をもつ  
○感じたことや体験したことを言葉で表現する



○種類ごとに分けることを楽しむ。

△幼児の発見に共感し、他の幼児たちへも共感の輪を広げていく。

△紅葉、木の実、雲の形、虫の声など秋ならではの季節の特色に気付けるようにする。

- ▲葉っぱの色や形の違いに気付いている。
- ▲思いはあるが言葉で表現することが苦手な幼児もいる。

気付く

★図鑑や絵本を用意する。



△体験したことや感じたことを伝え合う機会をつくり、自分の言葉で表現できるようにする。

△教師が寄り添って思いを引き出し、代弁することで言葉での表現につなげる。

▲図鑑等で新しく発見することを喜んでいる。

- ▲イメージにあうものを探したり、使ってみたりしている。

試す・工夫する

△自信をもって表現できるように、それぞれの発言を認めていく。

○体験して感じたそれぞれの秋を言葉で表現する。

★もち帰った落ち葉や木の実を用いて遊ぶ場を用意しておく。



▲友だちのつくったものや発言を認めるなどやりとりを楽しんでいる。

△幼児たちの制作したものを飾る。

△つくったものを見合ったり、どうやってつくったのか伝え合う機会をもつ。

粘り強く取り組む・挑戦する

★円形にするなど幼児同士が顔を見せ合って話ができるようにする。

▲自分の感じたことや考えたことを自信をもって伝えられるようになった。

▲積極的に発言しようとする姿があった。

### 遊びの中の豊かな学び

- ・身近な自然に興味をもち、実際に触れ、遊んだり調べたりすることで、季節の変わりを感じる
- ・見つけたもの、感じたことなどを伝えるためにはどうすればよいのかを考え、絵や言葉で伝えようと工夫していた

### 評価の観点

- ・思ったこと感じたことを伝えようとしているか
- ・自分たちの力で達成すること、表現することの楽しさを感じる事ができているか
- ・幼児たちと対話などを繰り返し、「こんなことがしてみたい」という気持ちを教師は引き出すことができているか



## 7 数に親しもう

\*数量・図形、文字等への関心・感覚  
\*社会生活との関わり  
\*思考力の芽生え

### <身近な環境から数に気づいていこう> 3歳児～

ねらい ◎生活の経験から数に興味・関心をもつ

○身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりしそれを生活にとりいれる

毎日の生活から ○お便り帳（月日）にシールを貼る ○出席調べをする ○園からの手紙を友だちに配る



今日は5やね。どのシールをはろうか

規則性などの発見

★カレンダーやホワイトボードなどに行事や活動の日程を書いて、その時々で紹介をし、幼児が興味をもって見ることができるようにする。



グループの友だち一人休んでいるから3枚ください

友だちへの関心・役割意識

○グループ単位で出席調べをする。友だちの人数を数える。

△教師は様々な数の数え方があることを意識しながら、幼児と一緒に数えるようにする。ひとつ・ふたつ、一番目、二番目を使い分ける。



○手紙を折る。（半分にする）  
○グループの友だちの数だけ手紙を取りに来る。

保育室の環境から ★誕生表

★グループ表

★時計

★積木の片づけ



私は2月生まれ、○ちゃんと一緒にだよ

長い針が6になったらお片づけしようね

工夫する

○使ったものを片づける。  
△目印、表示を付けて片づけやすいようにする。  
△使用前、後の片づけやすいようにする。

▲誕生日や同じ月に生まれた友だちの数など様々な数字に触れる。

▲グループ表を通してグループの人数など認識する。

△日常経験する事物について、数・長さ・広さ・高さ・形などを表す簡単な日常語を使って話す。（いくつ・何人・何匹・長い・短い・広い・狭い・高い・重い・丸い・四角）等

### 遊びの中の豊かな学び

- ・自発的な活動の中で、幼児は数量の概念を学ぶことができる
- ・物との関わりを通して、幼児自身が必要な数量を考えられるようになる
- ・様々な場面で数量を考えていく中で、実数と数字を関係づけ数字の意味を理解する

### 評価の観点

- ・幼児が遊びを通して自然に数量を考慮することができる環境設定や言葉かけはできているか
- ・幼児は遊びや生活の中で数量などに親しむ体験ができているか

## 8 数に親しもう

### < ジャガイモの収穫 > 5歳児 1期

\*数量・図形、文字等への関心・感覚  
\*自然との関わり・生命尊重

ねらい ◎ ジャガイモの生長を喜び、収穫を楽しむ

○ ジャガイモのできている様子を見たり触れたりする中で、数や形に興味をもつ



#### 遊びの中の豊かな学び

- 同じ経験をする中で気づきの声に、他児も共感し、収穫の喜びを味わう中で、大きさや重さ、量、数に興味をもち比べっこを楽しむ
- 大きそう、重たそうなものを推測し、示す針の動きの大きさに驚きながらイモの大きさを感じる
- 計測したイモを重さ表に並べ、自分の予測していたことを比べ新たな発見を喜び
- 重さを比べるための方法を知り、試したり工夫したりする

#### 評価の観点

- 自ら興味をもち、収穫したジャガイモにかかわろうとしているか
- 数量・大きさに関心をもち、自分なりに比べたり、試したりしようとしているか
- 教師は幼児の気づきに寄り添いながら、数・量などに興味をもてる支援ができていくか
- 気付いたこと感じたこと疑問に思ったことを友だちと伝え合い予測したり試したりすることを楽しんでいるか

## 9 決まりを守って生活しよう

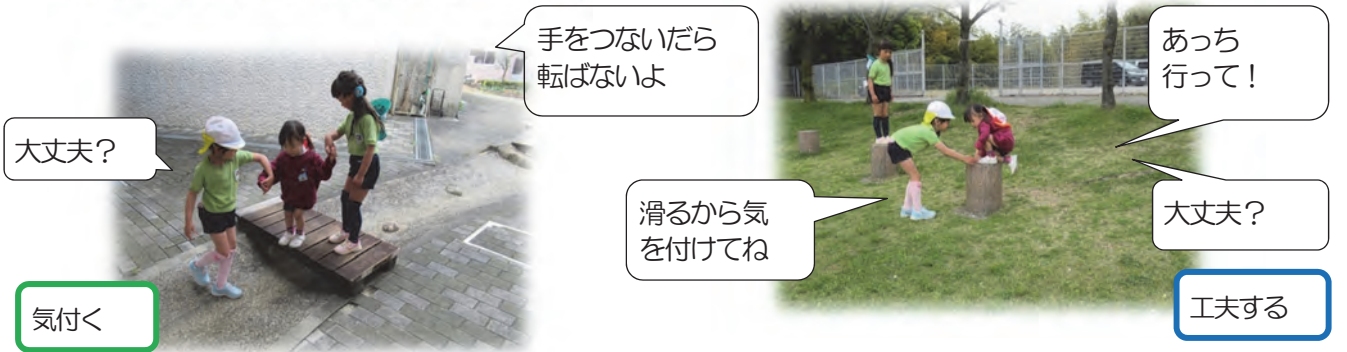
\*道徳性・規範意識の芽生え  
\*自立心  
\*言葉による伝え合い

<危なくないように一緒にしよう > 3歳・5歳 I期

ねらい ◎3歳 園の生活に慣れよう 5歳 経験をいかして年長児として見本を示そうとする

○楽しく安全に遊ぶために必要な決まりを自分たちでつくっていく

○異年齢保育で同じクラスの3人。年少児Aは入園したばかりで園内のいろいろなことに興味をもち、なんでもやってみようとする。まだ危険なことを判断できないため危なっかしい場面もあり、その姿を年長児が見守り、思いを汲み取りながら一生懸命かかわっている。



○Aは年長児の心配をよそに自分のしたいことにどんどん挑戦し、ついてくる年長児のことを嫌がることもある。

○年長児はそんなAと根気強くかかわり、危険のないように見守りながら遊ぶ。

▲年少児のやりたい気持ちを汲み取りながら、危険にならない範囲を考えて年長児が配慮しようとしている。

★異年齢児への関わりを通して、優しくしたりされたりする経験を積み重ねる。

▲やりたい気持ちを支えることで年長児としての自覚をもつ。

△安全に留意しながら年少児への関わりを見守る。



○5歳児の木登りする様子を見ておもしろそうと感じた年少児が、木登りに挑戦しようとする姿を見守り、自分たちの経験をもとにアドバイスしている年長児。

△これまでの3人の関係性や行動を考慮して、できるだけ幼児の力で解決できるよう見守る。

▲年長児は「危ないから禁止」とするのではなく年少児にとってどこまでが可能で、どこからが危険なのかを自分たちの経験から推測し、できる限り年少児の思いを汲み取りながら安全に過ごすための決まりを自分たちでつくっている。

### 遊びの中の豊かな学び

- 友だちとの関わりや集団の活動の中で、心地よく生活したり、楽しく遊んだりするために「決まり」の必要性に気づき自ら「決まり」をつくって守ろうとする
- 自分の経験をいかして、年少児の気持ちを推測したり年少児にとっての危険を予測したりする（年長児）
- 実際に経験することで危険やそれを防ぐための決まりの必要性を知る（年少児）

### 評価の観点

- 教師から一方的に決まりを与えるのではなく、幼児が主体的に、活動に向けて「決まり」を決めて活動できているか
- 決まりを守ったことで、楽しい、心地よいと感じられているか

# 10 決まりを守って生活しよう

\*道徳性・規範意識の芽生え  
\*協同性 \*言葉による伝え合い

## <リレーを楽しもう > 5歳 Ⅱ期

ねらい ◎友だちと力をあわせて走りぬこう

○楽しく安全に遊ぶために必要な決まりを自分たちでつくっていく

○年長児になり、リレー遊びが盛んになる。楽しんで取り組んでいるが「トラックの線で走る」「両チームの人数を揃える」といった決まりの必要性には気付いていない。

★トラックを引く、バトンを置いておく等幼児たちが好きな時にリレーを楽しめるよう準備しておく。

やったあ〜！こっちの勝ち！

ずるいわ！近道している



○去年の年長児のリレーを見た経験から「バトンをもらったら走る」といった大きなイメージはもっている。  
○はじめは走ることが楽しい様子だが少しずつ勝敗にこだわり始める。

▲幼児が繰り返し経験する機会を保障することで、幼児は自ら決まりの必要性を感じる。

△幼児から「それずるい」という気付きが出てくるのを待つ。

気付く 試す

今日も一緒のチームで走ろう



○一部の幼児が走っているコースやチーム人数等の違い、不平等さに気付く始める。  
△どうしたら不公平でなくなるか一緒に考えてみる。

★幼児たちが主体的に決まりをつくることのできるよう空間や時間を保証する。

★「リレー」という遊びの最初の決まり決めとなるので、クラス全体で話し合い、クラスみんなで意識づけられるようにする。

気付く 工夫する

あれ??こっち多くない?

○自分の気付いたことを言葉で伝える。  
○友だちの話を聞いて必要な決まりを考える。

★ホワイトボードなど視覚的にわかりやすいものを準備し、クラス全体が話し合いに参加できるようにする。

○決まりがかわったことでより公平な勝負となり、おもしろさや達成感が増した。  
○クラスの集団としての意識が高まった。



粘り強く取り組む・挑戦する

△普段の様子を踏まえて、気付いていそうな幼児に投げかける。  
△クラス全体が話し合いに参加できるような雰囲気をつくる。  
△「決まりがあることでより楽しくなる」という幼児の気持ちに共感する。

### 遊びの中の豊かな学び

- ・友だちと同じ目的を達成するために力を合わせたり話し合いをする
- ・人数の違いに気付き、数量への関心を膨らませる
- ・戸外での遊びを十分楽しみ、自然に触れることを喜ぶ

### 評価の観点

- ・一人ひとりが決まりを守ることの大切さに気付いているか
- ・話し合いの中で平等・公平などに気付いているか
- ・話し合いを経験することで、聞くことの大切さに気付いているか

## 幼児の遊びを発展させていこう

幼児教育において育みたい資質・能力は、何か特定の活動をすれば必ず育まれるというものではありません。一つの活動の中にも一人ひとり異なる学びがありますし、様々な活動を通して一つの学びが深まっていくということもたくさんあります。ここまでの実践事例では、堺市が大切にしたい5つの生活と遊びに視点をおいて、10の遊びを紹介してきましたが、この事例をそのままなぞるのではなく、園の実情や特性に合わせた活動を展開してください。

ここからのページでは、一つの活動から様々な活動へと保育が広がっていく事例や、それぞれの遊びが幼児の発達に伴ってどのように変化していくかをまとめたものを載せています。

幼児の遊びは、一つの活動の中で様々な広がり、深まっていきます。教師の言葉は、幼児を取り巻く環境の中でもとても大きな意味をもつものです。適切なタイミングで適切な言葉を伝えることが、幼児にとって学びを深めるきっかけになります。

教師が対話を通して幼児の学びを豊かにしていくためには、幼児の育ちへの見通しをもってタイミングを待つことが大切です。遊びの発展を見通すことは、幼児のつぶやきや動きを見逃さず、的確な対話や環境設定をすることにつながります。13ページの web 図と合わせて、今、目の前の幼児の遊びがどのように広がる可能性があるかを考える参考にしてください。

幼児教育において育みたい資質・能力は、遊びをとおしての総合的な指導を通じて育成されるべきものです。次ページからは、それぞれの遊びの中で、どのような資質・能力が育まれると思われるかを記しています。同じような活動の展開をしても、園や幼児の状況によって、育まれる資質・能力は異なる場合もあります。

### 知識及び技能の基礎

遊びや生活の中で、豊かな体験を通して、何を感じたり、何に気付いたり、何がわかったり、何ができるようになるのか

<キーワード>

気付く、できるようになる

### 思考力・判断力・表現力等の基礎

遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか

<キーワード>

試す、工夫する

### 学びに向かう力・人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか。

<キーワード>

ねばり強く取り組む

挑戦する

1つの活動から 様々な保育活動への展開

【秋みつけ】

事例一6 豊かな言葉を身に付けよう <秋みつけ>

幼児がどんなことを感じたり、気付いたりしたのかという心や気持ちの動きを読み取り、幼児と共に様々な保育の展開を工夫していくことが教師に求められる。



▲多くの友だちと楽しさを共有する

○遊びの説明をする

▲自分たちのつくったもので遊んでもらう満足感を味わう

▲友だちの姿に刺激を受け、新たな考えがひらめく



主に人間関係を  
中心とした活動

## 【 ごっこ遊び 】

\*豊かな感性と表現 \*協同性  
\*言葉による伝え合い  
\*社会生活との関わり

(ねらい) ・自分の思いを伝えたり、友だちの考えを聞いたりしながら、一緒に遊ぶことを楽しむ  
・友だちと目当てを共有し、考えを出し合いながら遊びを進めていくことを楽しむ

ごっこ遊びのおもしろさとは

- ・楽しいことを何度でも再現できる。 ・本物のようにできる。
- ・なりきって遊べる。 ・憧れの対象になることができる。
- ・自分ではない強いもの、かっこいいもの、かわいいものになることができる。

(0・1・2歳児)

ごっこの芽生え

まねっこ～つもり遊び・見立てて遊ぶ  
～ごっこ遊び

身近な人のまねを楽しむ

おうちごっこ ままごと遊び

お世話遊び お出かけごっこなど

物を何かに見立てることを楽しむ

「～みたい」 見立て遊び

(3歳児) 友だちとごっこで遊ぶ 体験を思い出して遊ぶ

ご飯はまだ？

もう少しでできるからね



### 知識及び技能の基礎

基本的な生活習慣や生活に必要な  
な技能の獲得

日常生活に必要な言葉の理解

### 思考力・判断力・表現力等の基礎

自分なりの表現 表現する喜び

### 学びに向かう力・人間性等

安定した情緒

★場づくりに必要なものの提示や材料の準備、なりきれる設定や素材、用具、衣装を用意しておく。

△遊びの中で幼児なりの思いが出せるように、共感したり代弁したりする。

△幼児が何を楽しんでいるか、どういう自分になりたいと思っているかを見極める。

△相手の思いに気付いたり、受け入れたり楽しさを共感できるように仲介する。

★遊びのイメージが共有できるように、絵本、写真などの提示をする。

△教師がイメージをつなげる言葉かけをする。

△考えたり工夫したり相談できるような時間を十分とれるようにする。

△一人ひとりの楽しさ、気づき等の把握と理解をする

**(4歳児) 友だちと一緒に考えた遊び場で活動することを楽しむ**

**友だちとイメージを共有する**

△幼児の発想を大切に、友だちと一緒に遊ぶ姿を見守ったり、イメージが膨らむような助言をしたりする。

○友だち同士の関わりの中で、「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」など言葉を使ったやりとりをしながら、なりきって遊ぶ。



**知識及び技能の基礎**

日常生活に必要な言葉の理解  
遊びに必要なものがわかる

**思考力・判断力・表現力等の基礎**

気付いたことを言葉に表す  
社会のルールや場面に適した言葉遣い

**学びに向かう力・人間性等**

話合い 共感 目的の共有  
協力 友だちと一緒に遊ぶ喜び  
や楽しみ



- 自分たちのつくった遊びに招待し、遊びに来ることを喜ぶ。
- △3・4歳児と5歳児と一緒に活動する中で自然に関わりがもてるようにする。
- 5歳児は3・4歳児にわかりやすく遊び方を言葉で伝えたり、やさしくかわったりする。
- △5歳児のアイデアや活動の様子に憧れの気持ちももてるような場を設定する。

**(5歳児) 友だちとのつながりを深めながら、主体的に取り組む**

**役割を考えて遊ぶ**



△友だちとイメージを共有して遊びを進めていく姿を認め、みんなが共通の世界を感じて思いを深めていけるようにする。

△数や文字に対して関心をもちはじめたときに、すぐに取り入れられるよう、数や文字表を用意し、教師も一緒に書き、書くことの楽しさを味わえるようにする。

**知識及び技能の基礎**

遊びの中でのつながり  
(関連性)の発見  
必要感に基づいた制作や  
表現の工夫  
日常生活における役割を  
意識

**思考力・判断力・表現力等の基礎**

必要感に基づいた制作や表現の工夫  
創意工夫 想像力 思考力 探究心  
表現力 協調性 達成感 満足感  
振り返り 思いや考えの伝え合い

**学びに向かう力・人間性等**

友だちと目的や見通しの共有 共感  
相手の考えの受容 役割の分担  
役割意識 協力 やさしさ 気遣い  
思いやり 自己肯定感 全員で遊び  
を進めていくことへの期待 次への  
意欲 自発性



主に環境の領域  
を中心として

## 【 砂遊び 】

\*社会生活との関わり \*協同性 \*健康な心と体  
\*道徳性・規範意識の芽生え \*思考力の芽生え  
\*自然との関わり・生命尊重  
\*言葉による伝え合い

- (ねらい) ・友だちと一緒に砂遊びをして楽しむ  
・砂、土、水に触れ、その性質に気付く  
・工夫し、考えを伝え合いながら遊ぶ

砂場遊びのおもしろさとは

- ・砂、土、水の感触や性質に気づき、工夫しながら遊ぶことができる。
- ・自分で作り直すことが簡単である。何度もやり直すことができる。
- ・一人遊びから友だちと協力してつくり上げる遊びへと広げることができる。
- ・友だちとの関わりができ、一緒につくる喜びや達成感、満足感が味わえる。

(3歳児) 一人遊びを大事にし、時間を  
十分確保する

自分の好きなものをつくる

型抜きで遊ぶ  
穴を掘る  
ごちそうをつくる  
だんごをつくる



### 知識及び技能の基礎

日常生活に必要な言葉の理解  
砂・土・水の性質を知る

### 思考力・判断力・表現力等の基礎

自分のしたい遊びを見つける  
自分なりの表現

### 学びに向かう力・人間性等

安定した情緒

△裸足になっても安全であるような砂場にあらかじめ準備しておく。砂や水の感触が楽しめるようにする。

△準備物は型押しやスコップ、容器など、十分に活動できるように、数に余裕をもって出しておく。

★必要と予想される道具や材料を準備しておく

△ 砂遊びの楽しさを一人ひとりが経験できるように声掛けをする。

△友だちと相談したり、協力したりして、大きなものや丈夫なものをつくりあげていくよう促す。

△困ったことやうまくできないことがある時には、みんなで考え、話し合う機会を設ける。

(4歳児) 一人遊びから同じ遊びをしてい友  
だちとかがわって遊ぶ

友だちとかがわって遊ぶ

だんごいっぱいできてきたね  
どのだんごが一番固いかな

もっといっぱい  
つくろう

カチカチだんごや、ピカピカだんご  
をつくろう

いくつあるか数えてみよう



**知識及び技能の基礎**

じょうぶにしよう しっかり握って固めよ  
② だんごに合う土や砂に気付く  
様々な気付き 発見の喜び

**思考力・判断力・表現力等の基礎**

つくっただんごを並べる いくつできたか数  
える 自分なりの表現  
試行錯誤 工夫 予測

**学びに向かう力・人間性等**

友だちとの関わりを深める  
集中力 遊びへの意欲

(5歳児) 友だちと相談して共通の目的  
をもって遊びに取り組む

友だちといろいろな道具や材料を  
使って遊ぶ

大きな山、川、海などをつくる  
山にトンネルをつくる  
水を流して川や、海をつくる

もっと水を  
いれるよ

もっと穴を  
掘ろうか

どうすれば  
うまくいくな



**知識及び技能の基礎**

大きくしよう 深く掘る 高く積む  
いっぱい積む 木などを入れる  
道具をたくさん揃える  
規則性・法則性 関連性などの発見  
様々な気付き 発見の喜び

**思考力・判断力・表現力等の基礎**

自分の思いを伝える 思考力  
工夫する 協力する 役割を決める  
実践力 試行錯誤

**学びに向かう力・人間性等**

友だちとのかかわる力 協力  
探究心 創意工夫 目的の共有  
思いやりの心をはぐくむ

主に健康の領域を  
中心として

## 【 こま遊び 】

\*健康な心と体 \*協同性  
\*思考力の芽生え \*自立心  
\*言葉による伝え合い

(ねらい)・こまを回したい願いをもって自分の手や体を使って根気良く取り組む

・友だちとうまく回せるようになったことを喜び合ったり、いろいろな回し方に挑戦する

挑戦的意欲を高める遊び

- ・乳児期から年長組になるまでに、大人に回してもらい回ることを楽しんだり、いろいろなこま回しを経験してきた（紙のこま、牛乳キャップこま、ぶんぶんこま、どんぐりこま、引きこま、両手回しこま等）
- ・年長児になり投げこまにチャレンジ。殆どが経験したことのない遊びでほぼ全員が同じスタートに立つ。
- ・こまが勢い良く回る様子や、友だちが回す様子を見てチャレンジの気持ちがふくらんでくる。
- ・自分が頑張った成果が見えることでより工夫したりチャレンジしたりする。

○こまの投げ方は見よう見まねで投げるが  
うまく回らない。何回もチャレンジする。

○紐の巻き方で回り方が  
違う、うまくいかない  
ことに気が始める。

○うまく回せるように  
なると友だちに教え  
る幼児もいる。

紐うまくまかれへん！  
いいなあ～回って

すごい！やったね！  
まわったね

やったあ！



○こまに色を塗り、自分なりのこまをつくり、回ると色が変わることに気付く（いろいろな色を使うと黒くなることを経験する。）。きれいな模様にするためにはどんな模様、色を使ったらよいか友だちと考え合う。

★お正月遊びをきっかけにしてこまへの興味関心を広げる。（年長組になったら投げこまに挑戦する）

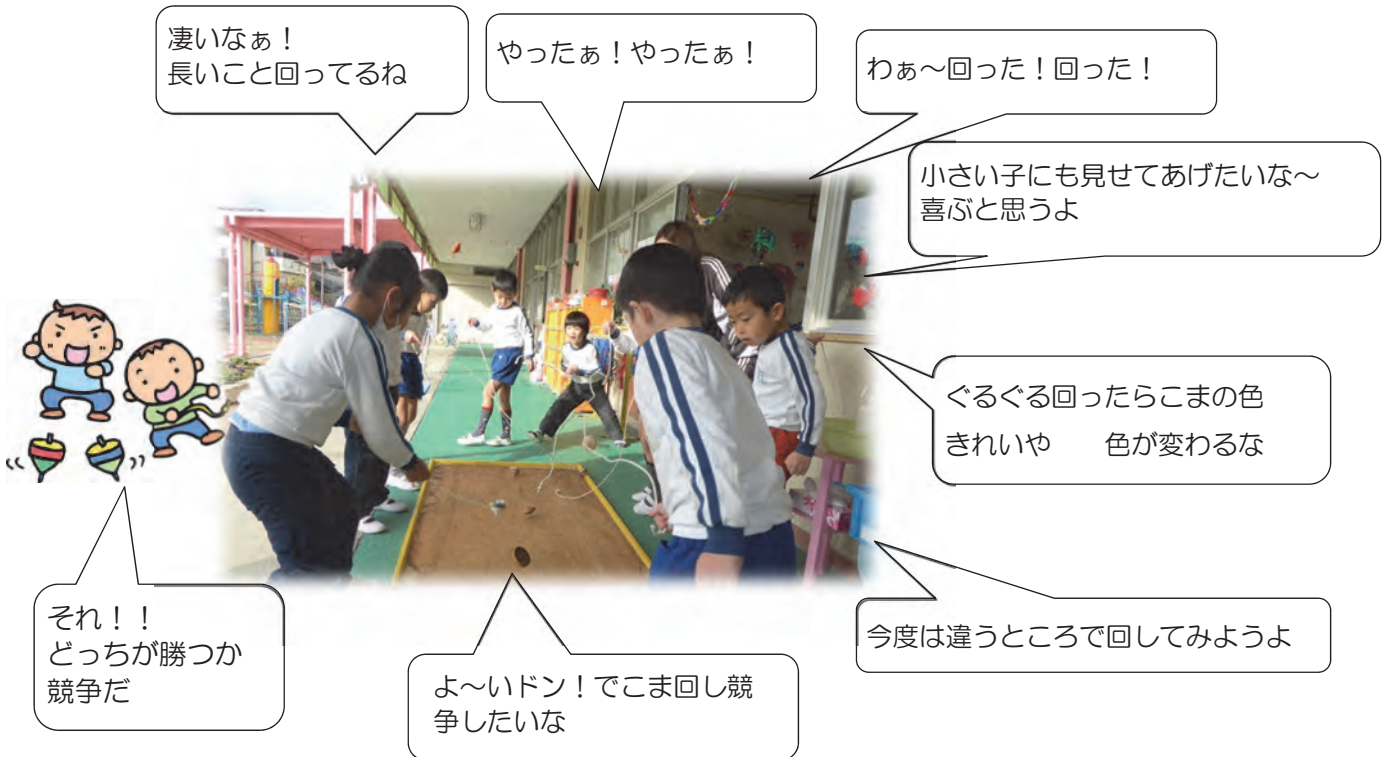
★挑戦の幅が広がるような環境構成をする。（枠を用意する 大きさの違う箱など幼児たちが探してチャレンジできるようにする等）（回す所もいろいろな場所で試せるようにする）

△うまく回る友だちの紐のかけ方に気付かせる。 「〇〇ちゃんのはどうしてうまく回るのかな？」

△周りの友だちの様子を見ながら「やりたい！」「できそう」という思いをもっている幼児の、がんばる気持ちに寄り添っていく。

△教師も一緒に回すことを楽しんだり、伝承遊びとしていろいろな回し方や、手寄せなど見せてもらう機会をもつ等遊びの幅を広げる。

○やっと回り大喜び。周りの友だちの  
応援・励まし・共感も嬉しい。



○回せる幼児が増えてくると、長く回す競争（時間）や板  
のせ、手のせ、UFO回し（場所・方法）など、遊び方  
やチャレンジの幅が広がってくる。

△いろいろなところ（コンクリートの上、板の上、缶の中、  
盆等）で回せるか提案してみる。

▲友だちが回せるようになっていくことを喜  
んだり、自分も回したいと焦る様子も見え  
るが、友だちの姿を見て自分もできると見  
通しがもて、頑張る様子が見られる。

#### 知識及び技能の基礎

紐をきちんと巻かないとうまく回らないことに気付く 様々な気付き  
手指・体をバランスよく使ってこまを回す  
こまの投げ方を習得する

#### 思考力・判断力・表現力等の基礎

どうしたらうまく紐が巻けるかなと考える 試行錯誤 工夫  
回っているこまの様子を体で表現したりする  
回せるようになるとさらに誰のこまが長く回っているかと観察し、違いや共通点に気付く  
いろいろなところで回してみ、こまが回りやすい環境を友だちと相談しながら探す

#### 学びに向かう力・人間性等

自分でこまを回したいという願いをもつ  
簡単なこま回しの経験からだんだん難しいものへと憧れをもって挑戦しようとする  
友だちの発見や気付きに共感し、他の場面でも互いに考え合う力へとつながっていく

主に言葉の領域を  
中心として

## 【 絵本ってたのしいね 】

\*言葉による伝え合い \*豊かな感性と表現  
\*社会生活との関わり  
\*数量・図形、文字等への関心・感覚

- (ねらい)
- ・先生や友だちと一緒に絵本に親しみながら、様々な言葉や表現を楽しむ
  - ・絵本を読んでもらうことを楽しみ、豊かな想像力や言葉に対する感覚を育む
  - ・絵本を通して友だちといろいろな遊びを工夫したり、考えたり、伝え合ったりして遊ぶ

### 絵本のある生活

- ・読み聞かせをしてもらうことを楽しみ、自分からも絵本を手に取り読もうとする。
- ・絵本を通して先生や友だちとやり取りを楽しむ。
- ・絵本を通して言葉の意味や話のおもしろさがわかる。
- ・お話を聞いて、絵を描いたり、ごっこ遊び、劇遊びをしたりする。
- ・知りたい、調べたいという思いを大切に、絵本や図鑑を活用する。
- ・絵本コーナーの設置や公共図書館の活用を経験をする。
- ・家庭と連携を取り絵本を読むことの大切さを知らせていく。



○おもしろかったところなどを、友だちに伝え共有する。「つぎはきょうなるよ」と話の展開を想像し楽しむ。

○繰り返しの言葉やおもしろい表現を見つけ、一緒に言おうとする。

★△季節感のある絵本や  
幼児が興味をもっている  
物事の絵本を読み聞かせ、  
その前後は自由に読めるよう  
に棚に並べる。



今日は何の本を読んでもくれるのかな？  
昨日の続きも読んでね

あ、それ知ってるよ



○自発の時間など、好きな時に手に取り読む。友だちと一緒に読むことを楽しむ。



△絵本の読み聞かせをする。わかりやすい内容の本を選ぶ。

△絵本の世界を豊かに想像し、自分たちのごっこ遊びに取り入れることで友だちと一緒に表現する喜びや伝え合う楽しさを味わえるようにする。

△絵本を通していろいろな気持ちに気づき、優しさや思いやりの心を育てる。

△読み聞かせをしてもらった後イメージしたことを絵に描く。(イメージする力を遊びにつなげていく)

★読んでもらった本を繰り返し友だちと読みながら、言葉の繰り返しや表現を共有することを楽しむ空間や時間を用意する。

★文字への関心が広がり、文字の役割や意味に気づき、読んだり書いたりできるように環境を整える。

絵本の部屋・コーナーの活用

- わからないことに出会うと、図鑑で調べたり、調べたことを友達にも知らせ、共有することを喜ぶ。
- 読んでほしい本を選ぶ楽しさを経験する。
- △本が選びやすいようシリーズやアイウエオ順に並べたり、今日読む本をわかりやすく提示する。
- △調べ方について支援する。(図鑑の使い方を一緒に経験する)

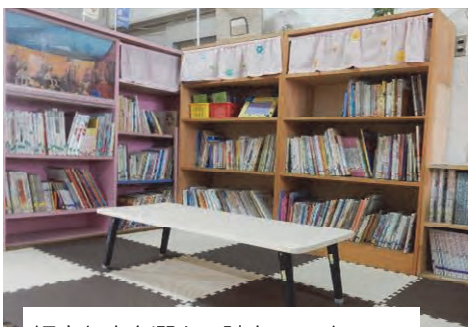
探してる葉っぱどれかな～?



わかった  
お話をよ  
聞いてね

今日はこれ読んで

ぼくのも読んでね  
おねえちゃん



好きな本を選んで読むコーナー

ここにあるよ  
見つけた!



季節に合った図鑑

- 年長児として本を読んであげることを楽しむ。
- 年長児が文字を読めることに、憧れをもつ。



園内の図書カード



知識及び技能の基礎

物や動物などいろいろな名前を知る 絵本っておもしろいなと想像の世界を楽しむ 文字への気付き

思考力・判断力・表現力等の基礎

想像力をかきたてられる イメージの共有 共感 思いの伝え合い お話づくりをする ごっこ遊びや劇遊びをする (表現する体験を積み重ねる) 関連性に気付き調べる (よく似ているけど違うな)

学びに向かう力・人間性等

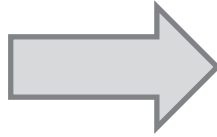
感性豊かになる 新しいことに出会いワクワクしたり、不思議に思うことに出会い探したり、調べたりする 文字や意味に興味や関心をもつ 遊びへの意欲がわいてくる お話を集中して聞く力が育つ

主に表現の領域を  
中心として

## 【 劇遊び 】

\*協同性 \*言葉による伝え合い  
\*数量・図形、文字等への関心・感覚  
\*思考力の芽生え \*豊かな感性と表現

小道具、衣装づくり  
(自発活動のなかで)



本日の活動について共通理解する

○劇遊びに必要なものをつ  
くり出す 創造する。

★遊びに必要な場、環境を  
整える。

どれくらいの材料がある？  
5人分だから5枚いるよ

朝の時間でこんなのを  
つくっておいたよ  
家でも考えてつくって  
みたよ

昨日氷の国で遊んだけど、氷が足りなかったか  
らつくらないと  
ペンギンの服もいるよ



▲生活の中で、必要感  
からの数量の認識

どうやってつくったの？  
こうしたらうまくいくよ

後でテープかしてね  
そのビニール袋、こっち  
にも分けて

○活動に親しみをもちイメージをもってつ  
くったり描いたりする。

▲友だちと共通の目的に向かうなかで、自  
己の役割への意識をもったり、自己発揮  
したりする。

▲共同の道具や材料を大切にし、みんなで使う  
という集団生活のなかでのルールを守る。

○友だちに尋ねたり、教えたりなど方法  
や考えを伝え合う。

▲知識や技術を友だちと共有する。

- △幼児の興味、関心からの取り組みの展開。
- △クラス全体での話し合いや振り返りの視点の提示、問題提起。
- ★幼児の発想を豊かにするための環境構成。
- △幼児の考えを整理し、クラスで共通理解するための視覚的支援。

- (ねらい)・友だちと考えを出し合い、協力して劇をつくり上げることを楽しむ
- ・最後まで責任をもってやり遂げることで、満足感、達成感を味わう



▲生活体験の模倣をしている。

○周りが暗いはずなのに普通に歩いている。

もういい加減にしないで!

ここはどこだ  
ワレワレハ宇宙人ダ!

周りが見えないから  
手で探したらいいよ

言葉はもっと大きな声で言  
ったらいいと思う  
隠れているのに見つかって  
しまうよ



ごめんなさい

〇〇さんの歩き方、ゆ  
っくり怖そうに歩いて  
いたよ

おもしろいお話  
がくれたね  
年少さんにも見  
せたいな

○生活経験や知識を基に、表現方  
法を考える。

○自分が気付いたことや考えたこ  
とを、相手にわかるように話す。

▲友だちの良さに気付き、一緒に活動  
する楽しさを味わう。友だちの表現  
を自分にも取り入れようとする。

▲自分のイメージを動きや言葉  
などで表現したり、演じて遊ん  
だりする楽しさを味わう。

▲自分の思ったことを相手に伝え、相手  
の思っていることを聞いて、考えの違  
いに気付く。

▲充実感、達成感を味わう。次回への  
期待をもつ。

○次回必要なものを考え、次回の活動への見通しをもつ。

### 知識及び技能の基礎

友だちの様子や言葉から気付く 気付いたことや考えたことを、言葉や身体表現で表す  
必要感に基づいて、自分で場や道具を用意する

### 思考力・判断力・表現力等の基礎

話し合い 物や道具に触れてイメージを浮かべる  
予想・想像 劇遊びの会に向けて、見通しをもつ 試行錯誤する 工夫する

### 学びに向かう力・人間性等

期待感をもって取り組む 好奇心 協力 役割分担 探求心 伝え合い、教え合い  
目的の共有、共通理解